

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立築瀬小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 84人

② 算数 84人

5 留意事項

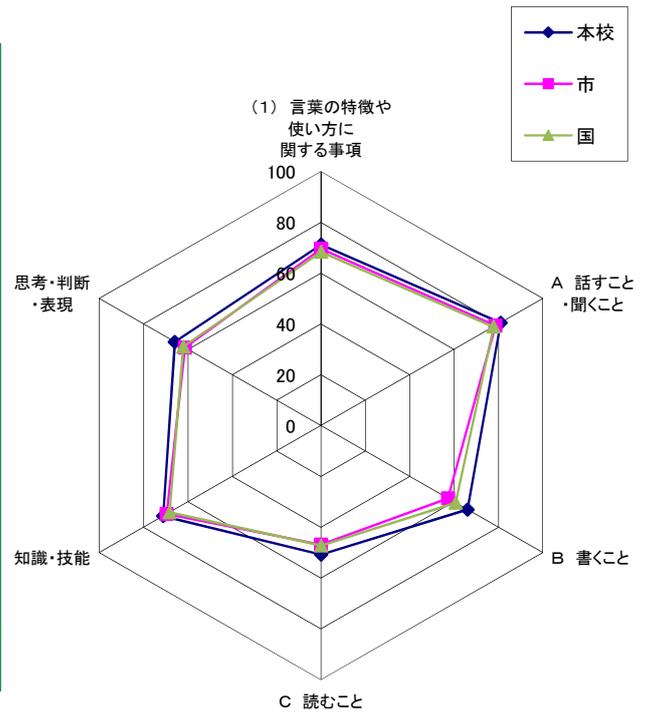
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立築瀬小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	71.2	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	81.0	78.7	77.8
	B 書くこと	66.1	57.3	60.7
	C 読むこと	50.8	46.9	47.2
観点	知識・技能	71.2	69.6	68.3
	思考・判断・表現	65.9	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

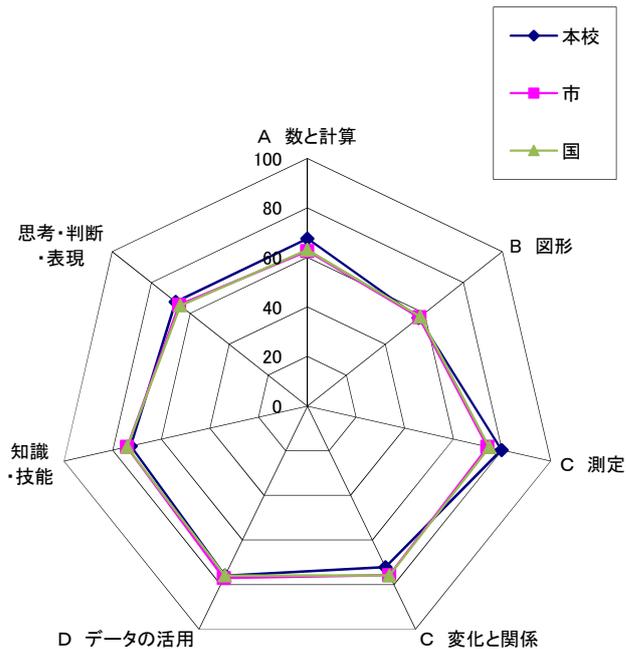
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は72.1%で、全国平均を3.8ポイント上回った。</p> <p>○「文の中における主語と述語の関係をつかえる」設問では正答率は79.8%で、全国平均より12.8ポイント高かった。</p> <p>●漢字を文中で正しく使うことに関する設問では3問中2問は全国平均を上回り80%程度の正答率であったが、「つみ重ね」は、51.2%の正答率で、無解答率も15.5%であった。</p> <p>●「文の中における修飾と被修飾との関係をつかえる」設問では正答率が45.2%で、全国平均とほぼ変わらなかったが、50%を下回っていた。</p>	<p>・二字熟語(音読み)だけでなく訓読みや文章の中での活用を意識した課題を設定し、いろいろな読み方に慣れるよう日々指導する。</p> <p>・主語・述語、修飾語・被修飾語、接続語などの文法的な要素を授業に位置付け、児童が身に付くまで継続して指導する。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は81.0%で、全国平均を3.2ポイント上回った。</p> <p>○「スピーチの構成を考える」や「目的や意図に応じ、資料を使って話す」の設問では、共に正答率が80%を超えており、全国平均より3.5ポイント高かった。</p>	<p>・一人一人が話す時間を確保し、視点を与えた話し方・聞き方を取り入れた授業を引き続き行っていく。また、その時々で目的を意識して話すように指導し、話の中心を明確にした話し方、目的に応じて質問することのできる力や質問の意図を適切に捉えて答えることのできる力、資料の活用等が身に付くようにする。</p>
B 書くこと	<p>平均正答率は72.1%で、全国平均を5.4ポイント上回った。</p> <p>○「文章全体の構成や展開を考える」についての正答率は69.0%、「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」についての正答率は63.1%で、どちらも全国平均を上回っていた。</p>	<p>・書く目的や相手に伝えたい事を明確にした上で、段落や字数などの条件に合わせて書く学習を意図的に行うとともに、書いた文章を読み返し、誤字・脱字や文のねじれなど推敲をする意識をもたせるようにする。また、国語の時間だけでなく他教科の学習においても字数や表現方法に条件を出すなどして条件に合った文を書く機会を設け、書く力を養成する。</p>
C 読むこと	<p>平均正答率は50.8%で、全国平均を3.6ポイント上回った。</p> <p>○「文章全体の構成をつかえ、内容の中心となる事柄を把握する」設問では、正答率は77.4%で全国平均とほぼ同じであった。</p> <p>●「中心となる語や文を見つけて要約する」設問では、全国平均より13.3ポイント高かったが正答率は44%であり課題が見られた。</p> <p>●「目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見つける」設問では、正答率は31.0%で、全国平均よりも3.4ポイント下回った。</p>	<p>・文章の内容を的確に押さえて要旨をつかえることや、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかくむことを書くことと併せて指導するようにする。</p> <p>・日頃から新聞記事や辞典、図書などを授業の中で活用し、必要な情報を読み取ったり、自分の考えをまとめたりする学習を意図的に取り入れる。</p>

宇都宮市立築瀬小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	67.6	62.6	63.1
	B 図形	57.1	57.5	57.9
	C 測定	79.8	74.1	74.8
	C 変化と関係	72.2	75.8	75.9
	D データの活用	76.0	77.1	76.0
観点	知識・技能	72.6	74.1	74.1
	思考・判断・表現	67.5	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は67.6%で、全国平均を4.5ポイント上回った。</p> <p>○「二つのコースの道のりの差の求め方と答えを求める」設問では、正答率が75.0%で、全国平均より12.5ポイント上回った。</p> <p>●「30mを1としたときに12mが0.4に当たる理由を記述する」設問では、正答率は52.4%で全国平均とほぼ同じであったが、無解答率が11.9%と課題が見られた。</p>	<p>・低学年から式の意味を考える時間を設けるなどの系統性を意識した指導を行い、既習学習を生かして自分の考えを表現できるようにする。</p> <p>・児童が式の説明を考える際に、定型文などを用いて、論理的に考えを表現する方法を身に付けられるよう繰り返し指導する。</p>
B 図形	<p>平均正答率は57.1%で、全国平均を0.8ポイント下回った。</p> <p>○「直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選択する」設問では、正答率が76.2%で、全国平均を3.7ポイント上回った。</p> <p>●「二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求める」設問では、正答率が48.8%であり、半数以上の児童が身に付いていなかった。</p>	<p>・図形に対する感覚を豊かにするために、色板並べやパズル等を意図的に取り入れて、学年の発達段階に合わせて数学的活動を適宜取り入れる。</p> <p>・複合図形の面積の求め方について、図形を分けたり、組み合わせて考えたりするなど、多様な方法を授業で取り上げ、いろいろな考え方を身に付けられるようにする。</p>
C 測定	<p>平均正答率は79.8%で、全国平均を5.0ポイント上回った。</p> <p>○「条件に合う時刻を求める」設問の正答率は88.1%であり、多くの児童が学習内容を身に付けていた。</p>	<p>・活用問題や発展的な問題に取り組ませることで、さらに力を高めていく。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は72.2%で、全国平均を3.7ポイント下回った。</p> <p>●この領域に関する全ての設問で、正答率が全国平均を下回っていた。特に、「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係についての考察」についての設問は全国平均を5.7ポイント下回っていた。</p>	<p>・数が大きな場合や条件が異なる場合でも、表や式などを活用し規則性を導き出し、問題を解決することのよさに触れさせていく。さらに、その規則性を活用して条件を変えて考える活動を通して、一般性や能率性などの数理的な処理のよさにも気付かせられるようにする。</p> <p>・児童の気付きを大切に、規則性を見いだす楽しさにふれ、関数的な見方や考え方の基礎を養える授業を展開する。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は76.0%で、全国平均と同じであった。</p> <p>○帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述する設問についての正答率は59.5%で、全国平均の51.8%を7.7ポイント上回った。</p> <p>●棒グラフから、数量を読み取る問題についての正答率は92.9%で、全国平均を2.9ポイント下回った。</p>	<p>・グラフの特徴を複数の観点から読み取り、読み取ったことを関連付けて解釈できるようにする。どのグラフから情報を読み取ったのか根拠を明確にしたり、読み取った情報を関連付けたりして考え、順序を追って話し合いながら丁寧に読み取り、解釈する活動を行う。また、算数だけでなく、国語や社会など他教科においてもデータの活用を意識して指導するようにする。</p>

宇都宮市立築瀬小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

1 生活習慣について

●携帯電話・スマホ等の使用時のルールについては、約34%の児童が「家での使用に関する約束はない」「守っていない」と回答していることや、使用時間について約30%の児童が3時間以上と回答した。長時間使用することによる学習や生活への影響、家庭内でのルールの徹底など、授業や学年だより等で啓発活動をしていきたい。

2 自分自身や他人や社会との関わりについて

○自分自身をどのように見つめているかということに関して、「夢や希望をもっている」「やると決めたらやり遂げる」と肯定的に回答した割合は両方とも約80%であった。最高学年という立場を意識して常に前向きに取り組んでいる姿が学校生活の中でも随所に見受けられることからデータに一致している。

●「失敗を恐れないで挑戦する」と肯定的に回答した割合は約62%とやや低い。6年生になって学校の中心として活躍しながら、最高学年の自覚が出て、各自が自信をつけてきたところであるが、失敗することを恐れている児童もいると思われる。失敗した時の反省も大切であるが、それ以上に成功した時の喜びとその理由などを児童とともに考えながら、プラス思考の大切さを指導していきたい。

3 学習について

●家庭学習の時間については、1時間以上と回答した児童が、平日では約65%、休日では約63%とやや低いので、今後も家庭学習の大切さを伝えていく。

○ICTの活用について「友達と意見交換したり、調べたりしている」では、週1回以上していると回答した児童の割合が約97%と高い値を示した。また、約98%の児童が「役に立つ」と回答している。このことから、授業や家庭学習においてICTの有効活用をさらに充実化していくことが児童の学習意欲を高めることにつながり、家庭学習の定着へとつながると予想されるので、より良い活用法を指導していきたい。

○「相手の考えを理解して最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えた」と回答している割合は約80%であった。コロナ禍で学び合いの授業がままならない中、話を最後まで真剣に聞き自分の考えと比較して新たな考えを見つけていくことが良くてきていたので、授業の展開を工夫して、学び合いが深められるように取り組んでいきたい。

●「自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表した」と回答している割合が約60%とやや低い。自分の考えを伝えることはできていますが、工夫しているかと問われると肯定的ではないことが分かる。国語の授業の「話す・聞く」活動において、めあてを明確にした授業を行い、それをもとにして各教科等にも応用できるよう指導の強化を図りたい。ICTもうまく活用しながら自分の考えを相手に伝えられるように工夫していきたい。

○●算数においても、「好き」と回答している割合は約61%とやや低い。反面、「大切」「分かる」の回答はそれぞれ約95%、約81%と高い。「解き方が分からないときはあきらめずに考える」という項目の肯定的回答は約80%であった。自らが課題意識を持って学習に取り組む中で、お互いの考えを伝え合い、より良い解決方法を見つけていく活動を通して、算数の学習の楽しさやおもしろさを実感させていくように授業の改善を図る。

4 コロナ休校中の生活について

●コロナ休校中における学習や生活に対しては、「計画的に学習していた」と回答した割合が約58%で、全国平均(約65%)と比べ約7ポイント低い。「規則正しい生活をした」という回答も約54%で、全国平均(約63%)と比べ約7ポイント低い。家庭学習の習慣の確立については、今後、保護者との連携を図りながら、児童に指導していくようにしたい。

宇都宮市立築瀬小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識及び技能の定着とともに、文章の内容を正しく読み取る力の育成。 ・主体的に自分の考えや思いを表現する力の育成 ・個人差への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な定着を図るために、学習内容の定着と学び方・考え方の定着の要素を考えた授業を展開していく。 ・国語だけでなく、あらゆる教育活動において、文章の内容を正しく読み取り、根拠をもとに自分の書く活動を取り入れていく。 ・単元を通して、計画的・意図的な繰り返し学習を設定し、児童の学習状況を理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の知識・技能に関する調査結果は全国平均を上回っていた。国語の「書く」領域では、全国平均を5.4ポイント上回っており、取組の成果が見られた。しかし、無回答の割合も高く、引き続き個別に指導する必要があることが分かった。 ・算数においては、選択式・短答式の正答率が全国平均を下回っており、基礎基本が十分身に付いているとは言えない結果であった。さらに児童の学習状況に合わせて、きめ細かな指導を継続的にやっていく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
学習習慣の確立に関する手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して学べる環境作り ・家庭学習の習慣化に向けた家庭と連携した取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の考え方や発言のよいところを教職員が率先して認め、そのよさを学級・学年全体に共有する。また、児童が、互いのよさを認め合う場を設定する。 ・話し合い活動を通して、児童が多様な見方・考え方に気付くだけでなく、自分の考えを深めたり、広げたりし、自身の学びの意欲を高めることができるよう継続的に指導する。また、発言の取り上げ方を工夫し、一人一人の意見を大切に扱い、児童が主体的に学ぶことができるような取組を行う。 ・家庭学習記録カードに学習内容や時間、振り返り等を記録する取組を進め、家庭と連携して、家庭学習の習慣を確立する。 ・教職員で家庭学習について共通理解を図り、学校全体で組織的に取組を進める。
算数に対する苦手意識をもつ児童への手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年の算数の授業では、習熟度別や少人数制にして引き続き理解の程度に応じた指導をする。 ・学びを実感できるような振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人ひとりの課題に合わせて授業の展開を工夫し、「個別最適な学び」が実現できるようにコース別学習や少人数での指導を柔軟に取り入れる。 ・数理的な処理のよさや算数のよさに気付き、振り返り、学んだことを広げて考えられるようにする。 ・算数で記述式の課題を行う時は、他の人にも分かるよう短く順序立てて書くことを児童が意識できるように、繰り返し指導していく。